春住・那珂 歴史文化遺産

はるずみ・なか れきしぶんかいさん

ガイドマップ

玄界灘に面する福岡市は、昔から大陸との交流の玄関口として発展してきました。中でも博多区の春住・那珂地域には、旧石器時代から先人たちが暮らした遺跡や文化が色濃く残り、九州の政治的な中心地であった時代もあります。

このガイドマップを持って、春住・那珂地域の魅力を現地で見て、触れて、探検しましょう！

春住・那珂歴史文化遺産 とは…

春住・那珂地域で大切に受け継がれてきた、歴史文化を伝える「もの」・「ばしょ」・「いとなみ」のことです。

春住・那珂はここ！

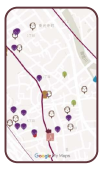
福岡市博多区にあり、博多駅の南東、福岡空港の南西に位置します。

アクセス
電車：JR 鹿児島本線　博多駅・竹下駅
バス：西鉄バス

マップの使い方

PDF版

デジタルマップ
はこちら！



Googleマイマップ
更新する場合があります

発行：ふくおか歴史資源活用協議会

福岡市経済観光文化局文化財活用部文化財活用課内
〒810-8620 福岡市中央区天神 1-8-1
電話：092-711-4982　FAX：092-733-5537

このマップは、春住・那珂校区の方々との共創により作成しました。

文化庁

令和５年度 文化庁文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）　**令和６年３月発行**

6つの魅力で見る春住・那珂 歴史文化遺産ガイド

春住・那珂地域の約２万年の歴史文化を、６つの魅力で紐解きながらたどってみましょう。

年代	旧石器	縄文	弥生	古墳	飛鳥	奈良	平安	江戸	明治	大正	昭和	平成	令和
	20,000	10,000	2,000	1,500			1,000			100	50		(年前)
春住・那珂地域の主な出来事	火砕流によって台地が形成される	石器を使用した人々の暮らしの痕跡（那珂遺跡）	二重環濠の集落がつくられる【市史跡那珂遺跡】	比恵や那珂の集落が大きくなる【県史跡比恵遺跡】	那珂八幡古墳がつくられる 主要道路がつくられはじめる（那珂中央公園内の道路跡）	那津官家がおかれる【国史跡比恵遺跡】 東光寺剣塚古墳がつくられる	大日寺が開山 菅原道真が大宰府へ・山浦氏は那珂へ	神社や観音堂が多く建てられる 番托井堰・水路の工事 庚申塔が多く建てられる	明治31　御笠川の橋の工事（廣田善太郎君架之碑） 明治42　旧博多駅が建てられる	大正2　竹下駅開業 大正10　ビール工場開業 大正10　御笠川の堰の工事（廣田直次郎君築之碑） 大正12　那珂小学校開校 大正13　旧塩原橋が架かる	昭和8　春住地区で土地区画整理事業がはじまる 昭和13　比恵遺跡ではじめての発掘調査 昭和20　竹下駅～空港引き込み線設置 昭和28　西日本水害発生 昭和31　春住小学校開校 昭和32　那珂中学校の名称となる（三筑北中から改称） 昭和43　青果市場業務開始 昭和46　那珂遺跡ではじめての発掘調査 昭和47　竹下駅～空港引き込み線廃止 昭和48　竹下駅が新幹線引込設置のため橋上駅となる	平成18　山王公園の地下に雨水調整池ができる	令和4　青果市場跡地に商業施設オープン
広域での流れ			水稲農耕のはじまり（板付遺跡ほか）	奴国の時代	那津官家の時代	大宰府政庁							
							那珂郡		筑紫郡		福岡市		

2万年超の営みを支えた ローム層台地

約９万年前の阿蘇山の大噴火による火砕流が積もって（**ローム層**）、春住・那珂地域一帯には**台地**が広がっていました。ローム層からは狩猟に使われたナイフ形の石器などが見つかり、**約２万年前から人々が暮らしていたことが分かっています。**

博多駅に近い春住地域は、昭和８年からの**区画整理事業**で台地の起伏がならされて、平坦なところがあります。一方で、日吉神社付近や那珂八幡古墳、那珂地域などでは今でも**台地の名残**があり、高いところでは**約10ｍもの高低差**があります。

みどころ

・那珂に多い坂道で地形の起伏を感じてみよう！
・日吉神社や那珂八幡古墳の丘陵地に行ってみよう！

発掘された古代都市 なこく

那珂遺跡の**発掘調査**では、**日本国内で最古級**といわれる弥生時代の**環濠集落の跡**が見つかりました。

さらに、**奴国の時代**の比恵・那珂遺跡群は同じ時代の吉野ヶ里遺跡と比べると約４倍相当の広さで、**日本最古の都市**ともいわれるとても重要な遺跡です。

古墳時代にかけて発展し、**福岡平野で最大級の前方後円墳**がつくられました。**那津官家**に関連する施設も見つかり、大宰府より古い公的施設があったことが明らかになりました。

今につながる100年 まちの近代化

大正２年の**竹下駅開業**を皮切りに、ビール工場、竹下商店街などが次々にできると駅周辺が発展していきました。当時、商店街は「**旭通り**」と呼ばれ、旅館や映画館などもあって賑わいました。さらに、昭和にかけてさまざまな**工場や企業の事業所**が増えていきました。

平成に入ってからは、それまで広がっていた田畑の**宅地開発**が進み、那珂校区は福岡市で４番目に人口が多い校区となり（令和５年時点）、**春住小学校**の児童数も増えて令和６年度には新しい校舎となります。

青果市場があったところには大型商業施設がオープンするなど、新たな発展をみせています。

地域をうるおし共生してきた みず

那珂川と**御笠川**・**諸岡川**の水を利用した農業は弥生時代から始まっていました。

新田開発が進んだ江戸時代、那珂川を大規模に整備した**番托井堰**と**水路**は、**吉塚までの田畑を潤しました。**

昭和のころには「那珂大根」や「東光寺カボチャ」などの名の付く特産品もありました。地域の人々は水害に悩まされながらも、**橋**や**堰**などを改修して、水とともに暮らしてきました。

平成には博多駅周辺の浸水対策でつくられた**山王公園の雨水調整池**により浸水を軽減させ、今なお水との共生を続けています。

菅原道真も通った?! みち

発掘調査で、弥生～古墳時代につくられた**直線的な道路跡**が見つかりました。これは**日本最古の都市計画道路**といわれています。さらに、奈良時代前後には、大宰府と博多をつなぐ**古代官道**が現在の筑紫通り付近を通っていたと推定されています。

竹下駅開業後は、一般乗客が利用する線路のほか一時期、空港やビール工場への**引き込み線路**も引かれました。竹下の車両用基地には各地に向かう列車が出入りし、人や物の動きが盛んになりました。

山王公園には、明治時代の**旧博多駅の柱**が移設されているほか、**福岡県内唯一の基準水準点**が設置されています。

古くから、道路や鉄道で人や物が行き交う**交通の要衝**であった名残を、今でも見ることができます。

未来に伝えたい いのり

地域には、みんなで受け継いできた「いのり」が今も大切に守られています。

福岡藩主が正月の三社詣をしていた伝承がある**日吉神社**や、**那珂八幡宮**、**吉備津宮**、**犬飼大神宮**、竹下と半道橋の**地禄神社**などがあり、地名の由来にまつわるところもあります。

また、疫病をはらうといわれた大日寺や、安産や様々な病気・なやみ事にきくという**石投げ地蔵尊**には、遠方からも多くの参詣客が訪れていました。商店街の繁盛を願った**竹下恵比須神社**もあります。

道案内の神様である**猿田彦大神**の石碑は、集落の魔除けとして道の分岐点に残されており、**観音堂**や**天神様**など今でも町角で出会えるものがたくさんあります。

きっとくわしく！ 豆知識

用語解説

奴国（なこく）

魏志倭人伝（３世紀）などに記される福岡平野にあった国のことです。

志賀島で見つかった金印は、弥生時代に奴国の王が中国の皇帝からもらったと考えられています。

那津官家（なのつのみやけ）

那の津は今の博多湾沿岸、官家は役所のような施設です。『日本書紀』には、西暦 536 年に各地から集めた食料を保管するために官家を造らせたと記されています。大宰府が設置されるまで、九州の政治的・軍事的な拠点を担っていました。

地名の由来を深掘り！

春住

春吉と住吉から名づけられた地名といわれます。昭和27～46年に春住町が存在しました。

犬飼

那津官家の警護を担った集団の名前にちなむといわれています。

東光寺

かつて来光寺というお寺があったことに由来します。

竹下

戦国時代からあった地名といわれ、江戸時代には竹下村がありました。

比恵と山王

京都・滋賀の比叡山の山王権現をまつる日吉大社に由来します。全国の「日吉社」「日枝社」「山王社」などはこの日吉大社がルーツです。かつては比恵村がありました。

那珂

古代の「那珂郡」から続いている、古い地名です。明治時代の中頃まで福岡平野の広い範囲がこの郡に属していました。

半道橋

太宰府方面への幹線道路において博多からちょうど半里（約2km）にある橋に由来します。

比恵遺跡群・那珂遺跡群・山王遺跡

これまで遺跡群全体で350件超の発掘調査が行われ、旧石器時代～江戸時代の遺跡が見つかっています。台地の上は、昔から人が住みやすい環境でした。特に弥生時代～飛鳥時代は周辺一帯の中心地でした。

この魅力のつまった マップは裏面へ